

夏秋系黄一輪ギク「夏のあゆみ（登録商標）」の再電照による品質向上効果

～6月開花作型では、再電照により上位葉が大きくなり、草姿が改善される～

吉川 那々子(知多農林水産事務所農業改良普及課)

【平成24年5月22日掲載】

【要約】

夏秋系黄一輪ギク「夏のあゆみ」は日持ち性がよく、収量性も高い。一方で、6月開花作型での草姿改善、8月開花作型での花型の改善が課題となっている。そこで、草姿及び花型の改善を目的とした再電照（電照を打ち切った後に再度短期間の電照を行うこと）試験を行った。8月開花作型では再電照を行っても花型の改善は見られなかった。一方、6月開花作型では、上位葉が大きくなり草姿が改善されたため、再電照の品質向上効果が高く、販売単価の向上が見込まれる。

1 はじめに

夏秋系黄一輪ギク「夏のあゆみ」は県農業総合試験場と県花き温室園芸組合連合会きく部会が共同育成し、平成22年6月に品種登録出願をした新品種である（平成23年12月に「夏のあゆみ」の名称で商標登録済み）。

この品種は日持ちがよく、単位面積当たりの収量性が高いなどの特徴をもつが、6月開花作型における上位葉のボリューム不足や、8月開花作型における花型の悪化が問題となっていた。そこで、再電照による草姿および花型の改善効果について調査を行った。

2 展示概要、調査方法

(1) 展示区の概要

6月開花作型は再電照による上位葉の拡大による草姿の改善、8月開花作型では花型の向上（いわゆる「だんご花」の回避）を目的に展示区の設置を行った。

表1 試験区の構成

作型	区名	再電照	規模
6月開花	無処理区	なし	23m ²
	再電照区	消灯9日後から4日間	23m ²
8月開花	無処理区	なし	28m ²
	再電照区	消灯9日後から4日間	28m ²

(2) 栽培概要

6月開花作（定植 2/22、摘心 3/4、消灯 4/16、収穫 5/28～6/9、
加温：定植～消灯 12℃、消灯後 17℃、消灯 16日後～ 14℃）

8月開花作（定植 4/24、摘心 4/30、消灯 6/10、収穫 7/28～8/12、

シェード：消灯後～消灯14日後までと消灯25日後～開花まで 13.5時間日長）

(3) 調査項目

6月開花では、開花直前に葉身長、花首長、柳葉数、到花日数を調査した。8月開花では葉身長、花径（図1 A）、花の厚み（図1 B）、外弁に覆われない部分（図1 C）、到花日数を調査した。

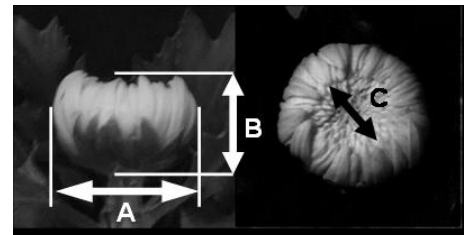


図1 花型の調査項目

3 結果

(1) 6月開花作型

止葉から第5葉の葉身長は再電照を行うことによって大きくなった（表2および図2）。また、花首長や柳葉数に有意差はなかった。一方、到花日数は、4日間再電照することで、4日間長くなった。

表2 電照による葉身長および草姿への影響

	葉身長(cm)						花首長 (mm)	柳葉数 (枚)	到花日数 (日)
	止葉	第2葉	第3葉	第4葉	第5葉	5葉の平均値			
無処理区	1.4	2.3	3.1	3.9	4.5	3.0	3.9	0.1	42
再電照区	1.9	3.4	4.2	5.1	5.8	4.1	4.4	0.2	46
t検定	***	***	***	***	***	***	n.s.	n.s.	

*:p<0.05 **:p<0.01 ***:p<0.001 n.s.:有意差なし

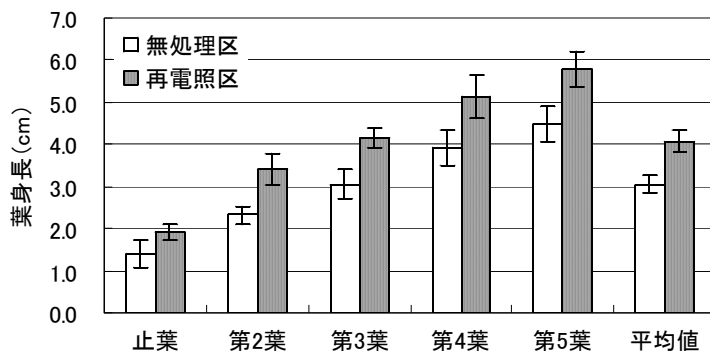


図2 再電照による葉身長への影響

(2) 8月開花作型

止葉から第5葉の葉身長は、再電照をしなくても十分な大きさだったが、再電照をすることで、さらに大きくなり、逆にバランスが悪くなった（表3）。花径、花の厚み、外弁に覆われない部分およびそれらの比は再電照の有無による有意差はなかった。到花日数は4日間の再電照により6日遅れた。

表3 電照による葉身長、草姿および花型への影響

	葉身長(cm)						(A)	(B)	(C)	(B/A)	(C/A)	到花日数 (日)
	止葉	第2葉	第3葉	第4葉	第5葉	5葉の平均値						
無処理区	4.1	5.8	6.6	7.2	8.0	6.3	24.3	16.5	6.8	0.68	0.28	48
再電照区	5.1	6.9	7.8	9.1	9.5	7.7	24.6	16.9	6.4	0.69	0.26	54
t検定	*	*	**	***	**	***	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	

*:p<0.05 **:p<0.01 ***:p<0.001 n.s.:有意差なし

(A):花径、(B):花の厚み、(C):外弁に覆われない部分の径

4 まとめ（考察）

（１）６月開花作型では、再電照により上位葉が大きくなって、草姿の改善が見られた。また、到花日数の遅れも再電照した日数にとどまったため、再電照の品質向上効果は高く、販売価格の向上が見込まれる。

（２）８月開花作型では、再電照の有無による花型の違いはなく、いわゆる「だんご花」を回避することはできなかった。また、上位葉が大きくなりすぎて草姿のバランスが悪くなり、到花日数も再電照日数を上回って遅れたことから、８月開花作型では再電照するべきではないと考えられる。

Copyright (C) 2012, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.